

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270401027		
法人名	有限会社 高齢者介護センター		
事業所名	グループホーム宮田		
所在地	千葉県千葉市若葉区中田町1041-1		
自己評価作成日	平成22年1月31日	評価結果市町村受理日	平成22年4月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOPA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成22年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「利用者が長期にわたり安心かつ快適に暮らせる共同生活の場として機能するよう頑張ります」を当施設の理念として、職員一同、日常の合言葉は、「生き生き、のんびり、あたたかく」元気で明るく利用者さんと接しています。特に力を入れている点は、「温かい雰囲気のグループホーム」を維持して いく為、施設長はじめ、職員一丸となり、日々、ケアを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは千葉市東部の若葉区で、木造平屋の民家をグループホームとして活用した家庭的な雰囲気の施設である。理念は「利用者が長期にわたり安心かつ快適に暮らせるような共同生活の場として機能するように頑張ります」とし、居間に掲示して職員啓発に努めている。入居者の多くは男性で食事についての多彩な要望があり調理師を中心に手作りで、質・量とも充実した食事を提供し健康改善に成果をあげている。入居者から映画鑑賞の希望があり居間にDVD対応の大画面テレビを設置し、楽しみな生活を支援している。また、ホーム用地を開放した納涼祭では多くの地域住民の参加を得るなどして地域に根ざした施設を目指している。法人代表は地域での諸活動を基盤に福祉事業の充実を目指し、09年11月には隣接する八街市にデイサービス施設「砂の里」を立ち上げ、その施設長を務めている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が長期にわたり、安心かつ快適に暮らし続ける事を支えて行くサービスとして、実践につなげている。	ホームの理念を居間に掲示し「生き生き、のんびり、あたたかく」を合言葉に、施設長、職員一体となって日々実践している。特に利用者の声・要望を一生懸命に聴くこと、分り易く話すことを心掛けている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動に参加して、地元の人々と交流している。	自治会に加入し、地域の祭りや自治会館の盆踊りに参加している。施設の納涼祭には「大塚和太鼓」を盛大に催して、多数の参加を得ている。日常的には散歩の時挨拶をしたり、時には花や野菜を戴くなどの交流をしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩に出かけた時は、地域の人々に挨拶や声を掛けて、元気である事を確認して、活かしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、報告された意見を議題とし、話し合い、その結果をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は年3回開催している。参加者は市職員、自治会長、自治会連合会長、民生委員、ボランティア、老人会など12名である。ホームの現況と課題、外部評価結果などを話し合って運営に役立てている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスの質の向上に向けた協力関係を築くように取り組んでいる。	区福祉課、区保健福祉センターと日常的に連携を取り、又市の主催する種々の研修にも参加して運営に役立てている。生活保護受給者についてはケースワーカーと密接に連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急やむを得ない場合は、家族の許可を得て、記録する。 身体拘束をしないよう、日々、ケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないことを基本とし、これまで拘束したことはない。研修には常に参加して全員で知識や技術を共有している。経験豊かな職員が多く、施設長の指導のもと十分に目配りし、拘束しないケアを心掛けている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束、虐待、0宣言をモットーに事業所内での虐待が見過ごされる事がないよう、注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネから、職員達に権利擁護、成年後見制度について、説明を受けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約解除の際は、家族等に十分な説明を行い、理解、納得を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に反映されている。	家族等のいる利用者は少ないが、面会時等に丁寧に対応し意向把握に努めている。利用者は男性が大半を占め、食事に関する要望も多く、正月等行事の際は酒やタバコも用意するなど対応している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にサービス会議を行い、職員同士、意見交換をし、反映させている。	月1回全員でサービス会議を開き率直に意見交換をしている。散歩の回数を増やしたり、利用者がコンビニで買い物をする機会を作る等も、職員の提案で具体化したもので利用者に喜ばれている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境、条件の整備に、努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、出来る限り、研修を受け、職場では、実技等を受けたりしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に入会しており、同業者と交流を持ち、サービスの質を向上させていくよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>いつでも、利用者が相談出来るような、雰囲気作りをしている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族等が困っている事、不安な事、要望等に答えられるように、日々、努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族等が、必要としている要望には、早急に対応している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家族的な雰囲気ですぐ支えあう関係を築いている。</p>		
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員は、家族と共に「家族の絆」を大切にしながら、利用者を支えていく関係を、築いている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者が大切にしていた友人関係や、馴染みの物、衣類等は、大切にしている。</p>	<p>入居前からの本人のお気に入りの衣類や郵便物などの保管維持に努めている。利用者の大半は家族、友人知人がなく、これまでの関係を続けることは困難な状況であり、面会等も殆どなくホームでの生活が総てといえる。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の支え合いが、出来る雰囲気作り、支援を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性を大切に必要に応じて、相談、支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人々の希望、要望に応えられるように、検討しながら、努めている。	利用者の希望に添った対応をすることをホームの方針として最重視して取り組んでいる。日常の本人との会話や態度、仕草などから思いや意向の把握に努め、困難な場合は職員同士でよく話し合って対応している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人々の生活歴、これまでの生活環境を把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの現状は、把握出来ている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要な関係者と意見交換をし、本人の意思を尊重し、それを反映し、ケアプランを作成している。	利用者毎の希望や昼夜の詳細な記録、担当職員の意見や気づき等をもとに、ケアカンファレンスで話し合い、本人の意思を尊重したケアプランを作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を活かし、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化を活かし、柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人達にも、協力して頂き、安全で、豊かな暮らしを楽しめるように、支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院で、定期的を受診している。	総合病院受診の利用者には、月1～2回職員が同行し、提携クリニックからは月2回医師の往診がある。その他整形外科受診や訪問歯科医など医療の受けられる体制を整えている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携している病院の看護職員に相談しながら、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換をし、相談するように、努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族のいる利用者は、家族と話し合い、提携病院にも、相談している。	家族からの要望をきっかけに平成21年12月に、ホームで最期まで看取ろうという方向付けの検討をはじめた。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の初期対応の実技を定期的に行い、実践している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年一回、避難訓練を行っている。	年1回消防署の指導があり、本年は災害通報からの一連の流れを踏まえた避難訓練を利用者と一緒に行った。今後は夜間を想定した訓練の実施を予定している。	ホームでは夜間を想定した避難訓練を予定しているのは是非実現を期待したい。また、木造住宅における漏電のチェックなど災害を未然に防ぐ対策も検討願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを尊重し、職員が、一体となり、人格を尊重した対応を行っている。	羞恥心やプライバシーに配慮した言葉掛けや対応をすることを職員に徹底している。排泄や入浴時なども、出来ることは極力自分でするよう支援し、羞恥心やプライバシーの確保につなげている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望や思いを自己決定できる雰囲気作りをしながら支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の日々のペースを大切にし、希望に合わせたその日の過ごし方を、支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者、一人々の要望に合わせた身だしなみや、おしゃれができるように、支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今の所、準備は難しい為、一部の、利用者と職員と一緒に片付けはしている。	準備や片付けなどのできる方は職員と一緒に、居間に続く台所から手作りの食事を提供している。利用者の状態に合わせた食形態で食事が楽しめるよう工夫している。食事前には必ず手を洗うことを励行している。	食事を大切に捉え、毎食手作りを基本としており、時間になると調理の匂いや湯気が見えたりと、まさにアットホームな雰囲気である。今後もこの取り組みが継続されるよう期待したい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量をチェックし、記入している。一人々の状態や能力に応じた支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後、一人々の口腔状態や本人の能力に応じた、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人々の力に応じて、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の自立に向け、おむつはづしを目指している。夜間はおむつ使用の方も日中はリハパンにして、トイレでの排泄を支援しQOLの向上につなげている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や、個々に応じた予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の意思を尊重し、入浴を楽しめるように努めている。	週2回の入浴を基本としている。夏場は入浴の他にシャワー浴も多く取り入れている。入浴時間は利用者職員とのコミュニケーションの場ともなり、本人の精神的な安らぎの時間にもなっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状況に応じて、いつでも休息や眠る事が出来るように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人々が使用している薬の用途が、いつでもわかるように薬歴を保管し、服薬の支援と症状の確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人々の力を活かした、役割、楽しみ事、気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人々の希望を把握し、戸外に出かけられるよう、支援に努めている。又、個人の要望でお墓参りにも行っている。	天候の良い時は毎日散歩をしている。またホームのワゴン車にテーブルや椅子など積み込み、お弁当を持って花見や秋の梨狩り・ぶどう狩りなど近郊に出かけることも多く、利用者は楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭感覚を無くしてしまい、本人の管理が難しい為、職員が預かり、利用者と一緒に買物に行く。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは本人の希望に応じて支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、快適に過ごせるように、工夫している。又、利用者にとって不快音や光、温度等が不愉快になる利用者もいるので特に、気を使っている。	玄関や居間には季節に合わせた人形が飾られたり、利用者の作品や似顔絵が掲示されている。また利用者が一緒に連れて入居した飼い犬は、利用者や職員の心を癒してくれる存在になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、一人々が思ったように過ごせる居場所の工夫をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人が快適に、心地良く過ごせるようにしている。	居室には衣類や小物類、或いは家族と一緒に撮った写真など、それぞれ好みのものが配置されている。またエアコンや電気毛布なども用意され、居心地よく過せるようにしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人々の力に応じて、出来る限り、自立した生活を送れるように努めている。		